

OS1501

この通りのヘッダを挿入のこと
10ポイント、右寄せ

14ポイント

講演番号のヘッダを挿入のこと
16ポイント、左寄せ

論文の作成について*
(副題がある場合は括弧でくる)

12ポイント

機械太郎*1, 技術さくら*2

Making Research Paper
(□□□)

14ポイント

10ポイント
第一著者の
所属, 住所

Taroh KIKAI*3 and Sakura GIJYUTSU

12ポイント

英文抄録は150~250語
改行しないで書く。

*3 Nihon Kikai Unive Dept. of Mechanical Engineering
Shinanomachi 35, Shinjyuku-ku, Tokyo, 160-0016 Japan

10ポイント

When preparing the manuscript, read and observe carefully this sample as well as the instruction manual for the manuscript of the Transaction of Japan Society of Mechanical Engineers. This sample was prepared using MS-word. Character size of the English title is 14 pts of Times New Roman as well as sub-title. The name is 12 pts. The address of the first author and the abstract is 10 pts of Times New Roman. Character spacing of the abstract is narrowed by 0.2 pts preferably.

キーワードは5~10語句 (必ず, 基準キーワード集より3~5句選定)

9.5ポイント

Key Words : Mechanical Engineering, Keywords List

10ポイント

1. 緒言

10ポイント

- 日本機械学会論文集執筆要綱より, 原稿作成に際して主な原稿体裁をまとめた.
- 本文のレイアウト (1 ページあたりの文字数) は, 文字数は24字×46行×2段=2208字とする.
□□□□5□□□□10□□□□15□□□□20□□□□
- 文章の区切りには全角の読点 (、) と句点 (。) を用いる.
- 本文には, 半角かな文字は使用しない.

2. 記号・単位の書き方

- L : 長さ [m]
- Re : レイノルズ数
- t : 時間 [s]
- x : 流れ方向の座標 [m]
- α : 熱伝達率 [W/(m²·K)]

量記号はイタリック体, 単位記号はローマン体, 無次元数はイタリック体で書く.

数学記号・単位記号及び量記号は, 半角英数字を使用する. 単位は, SI 単位を使用し, 4 MPa のように書く.

3. 見出しの書き方

□3・1□節の字体はゴシック体 □□2 文字空白を空け, 本文を書きはじめる.

章見出しは2行分をとって, 行の中ほどに書く. ただし18字以上は3行分を必要とする. また, 字体はゴシック体で書く.

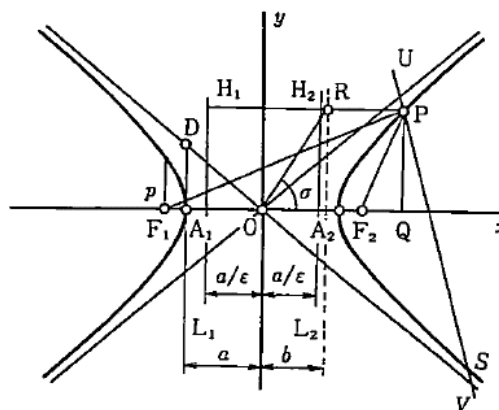


Fig. 1 Sample of clear figure

*原稿受付 0000年00月00日

*1 正員, 日本機械大学 (〒160-0016 東京都新宿区信濃町35)

*2 学生員, 日本機械大学 工学部.

E-mail: taro@jsme.or.jp

E-mail:連絡者1名のみ記入

Table 1 Sample of expression of values

Recommend	Not recommend
0.357	.357
3.141 6	3.141,6
3.141 6×2.5	3.141 6・2.5

Table 2 Sample of root and division

Recommend	Not recommend
$\sqrt{(x-y)}$	$\sqrt{x-y}$
$(a+b)/(c+d)$	$a+b/c+d$

Table 3 Physical properties of air at atmospheric pressure

T [°C]	ρ [kg/m ³]	c_p [J/(kg·K)]	η [Pa·s]	ν [m ² /s]	k [W/(m·K)]	a [m ² /s]	Pr
		×10 ³	×10 ⁵	×10 ⁵	×10 ²	×10 ⁵	
0	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
10	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
20	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
27	1.1763	1.007	1.862	1.583	2.614	2.207	0.717
30	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
40	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
50	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
60	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
70	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
80	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
90	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
100	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx

4. 図及び写真・表の作成に関して

(1) 本文中では、図 1、表 1 のように日本語で書く。写真は、図として扱う。

(2) 番号・説明などは、図・写真についてはその下に、表についてはその上に書く。

(3) 本文と、図・表の間は 1 行以上の空白を空けて、見やすくする。

(4) 図中・表中の説明及び題目はすべて英語で書く（最初の文字は大文字とする）。

(5) 図及び表が 1 列（片側）に収まらない場合 2 列（両側）にまたがって書くことができる。

(6) 図及び表の横に空白ができて、その空白部には本文を記入してはならない。

4. 数式の書き方

式番号は、式と同じ行に右寄せして（ ）の中に書く。また、本文中で式を引用するときは、式 (1) のように書く。

式を書くときは、2 文字分空白を空ける。また、必要行数分を必ず使うようにして書く。3 行必要とする式を 2 行につめて書いたり、2 行に分かれる式を 1 行に収めたりしない。なお、本文と式、式相互間は 1 行以上の空白を空けて、見やすくする。

また、原則として数式エディタのポイント数は本文に準じるものとするが、添え字等が小さく読みにくくなるときは適宜拡大する。

$$\square\square \gamma(t) = ji / N \quad (1)$$

$$\square\square \bar{C}(t) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i(t) \quad (2)$$

$$\square\square C_{th} = \frac{\sum_{i=1}^N C(t)}{\sqrt{\sum_{i=0}^N (l_0 - l_i)}} \quad (3)$$

$$= \frac{b}{a} C_0$$

式はなるべく片側に書くことが望ましいが、両側にまたがる場合は、読む順序に混乱を生じないように、そのページの式の上、または下の本文全部を両方にまたがるように書かなければならない。本見本では、式 (4) は次ページの最上段に配置しているので、以下の文章は 2 段組で続けることができる。

$$\square\square W_{th} = Q_1 \frac{\Delta T_0}{T_0 + \Delta T_0} = Q_2 \frac{2\Delta T_0}{T_0 + 2\Delta T_0} = Q_3 \frac{3\Delta T_0}{T_0 + 3\Delta T_0} = GL_0 \frac{\Delta T_0}{T_0} \frac{T_0 + \Delta T_0}{T_0} \left\{ \alpha^* - \frac{C_p \Delta T_0}{L_0} \left(\frac{T_0}{T_0 + \Delta T_0} \right)^2 \right\} \quad (4)$$

5. 引用文献の書き方

本文中の引用箇所には、右肩に小括弧をつけて、通し番号を付ける。例えば、新宿・渋谷^{(1)~(3)}のようになる。

引用文献は、すべて英文で書き、本文末尾に番号順にまとめて書く。

6. 結 語

本会ホームページにあるテンプレートファイルのスタイルを利用すると、各々の項目の書式が自動的に利用できるのご利用ください。なお、絶対的な出来上がりのレベルを保証するものではありませんので、印刷結果が望むレベルに達しない場合には、ご使用の環境に合わせて、各自において微調整を行うなど論文集の体裁に最も近い設定を行ってください。

文 献

9.5 ポイント

- (1) Takeuchi, Y., Ultraprecision Micromilling Technology (Review), *Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers, Series C*, Vol. 71, No.701 (2005), pp. 1-4.
- (2) Nagashima, A., New Year's Greeting, *Journal of the Japan Society of Mechanical Engineers*, Vol. 108, No. 1034 (2005), pp. 1-2.
- (3) Keer, L.M. et al., Resonance Effects for a Crack near a Free Surface, *Transaction of the ASME, Journal of Applied Mechanics*, Vol. 51, No.1 (1986), pp. 65-69.
- (4) The Japan Society of Mechanical Engineers ed., *JSME Data Handbook: Heat Transfer*, (1979), p. 123, The Japan Society of Mechanical Engineers.
- (5) Ahrendt, W.R. and Taplin, J.F., *Automatic Feedback Control*, (1984), p. 12, McGraw-Hill.
- (6) Tsutahara, M. et al., A Study of SIS of Surfactant by the Finite Difference Lattice Boltzmann Method, *Proceedings of the 16th Computational Mechanics Conference*, No.03-26 (2003-11), pp. 121-122.
- (7) Shibutani, Y., Heinrich's Law resulted Pattern Dynamics-Part2-, *Proceedings of the 79th Kansai Branch Regular Meeting of the Japan Society of Mechanical Engineers*, No.04-05 (2004-3), pp. 205-206.